

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171600479		
法人名	株式会社 吉田フロア		
事業所名	グループホーム 楽しいわが家		
所在地	埼玉県上尾市中妻2-13-8		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 3 日	評価結果市町村受理日	令和 6 年 3 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階
訪問調査日	令和 6 年 1 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が、自分の家のように生活が送れご家族様も気軽に来れるような家庭的な雰囲気を大切にしています。利用者様への手作りの食事を提供し、また季節やイベントごとに行事食などを利用者様と一緒に作りより家庭的な雰囲気を感じて頂く様にしています。ご家族の思いも大切にしてお礼まで叶えられる事は一緒に考え叶えて行けるよう日々努めております。地域の方々と積極的に交流を持ち地域に根ざしたグループホームを目指しております。今後も、いつでも誰にとっても、ここが「楽しいわが家」であるよう努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

主要道路に面した入口玄関の横には、事業所敷地内で育ったミカンを格安で販売している。わずかな量ではあるが、近隣の人から「もう、なくなったよ」との声掛けもあり、地域におけるグループホームとしての存在が理解されている。ワンフロア集約型ホームであり、家族的な雰囲気を信条として、管理者だけでなく職員も同じ思いであることが随所にある。月次のミーティングは約1時間想定であるところ、3時間近くを要することもあるという。活発な意見交換や利用者への思いが深いともいえる。フロアには「ありがとうBOX」が設置されており、職員間での気付きや感謝を伝える意見箱となっている。些細な心遣いを評価する意見が職員間のコミュニケーション力を高め、働きやすい職場づくりに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングなどで理念について話し合い、研修・確認し、実践方法の共有化に努めている。	「尊厳・和顔・愛護」の理念は、毎朝の唱和や館内随所での掲示で周知されている。人は鏡、との思いから笑顔での接し方を通して、自分が変わり楽しむことで、みんなも変わるとの信条がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為今は交流はないが、地域の祭りに参加したり、ホームの行事に地区の方々を招いたりして、交流を深めていました。	コロナ前は交流も深かったが、現在は敢えての自粛としている。自治会からは長寿の祝いや散歩途次での声掛けはある。敷地内で取れたミカンを玄関先で近隣向けに格安販売しており、好評である。	コロナ禍を過ぎた後、自治会長や民生委員との接点を増やし、近隣交流を深めたい。被災時における災害協力体制についても相談の機会を設けたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において報告や意見交換を行っている。(感染対策の為会議は中止)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において報告や意見交換を行っている。(感染対策の為会議は中止)	運営推進会議議事録は、行政の書式に合わせ2カ月毎の報告としており、書面開催となっている。対面式の開催に向けては、行政や地域包括と相談のうえ進める予定でいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と連絡を取っている。	コロナ禍のため介護相談員の来訪も止まっているが、行政報告や認定調査関連で市役所窓口へ行くことは多い。都度の相談や報告は担当者間では実施している。生活支援課からの来訪はある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保との兼ね合いの中で、出来る限り実践している。やむを得ないものとするものに関してはご家族様と話し合い、その上で同意を頂いている。	身体拘束適正化委員会は3カ月毎に実施している。月1回のミーティングの後に、ケアマネジャーを中心とした研修の他、動画研修で履修の機会を設けている。ベッドの位置を変えたり、マットレスを変更したりの工夫が取られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1回の身体拘束会議やミーティング時に職員に周知している。日々の重要注意事項として着脱時や入浴時に身体チェックシート・キズ表を作り虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自主学习となっており職員間の周知に至っていない。対応が必要な利用者には関係各所と連携を取り制度を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必ず説明し理解いただきサインをもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に傾聴を心がけている。LINEなどを使用しご家族様の意見、要望に素早く対応している。出た問題については全職員にラインで知らせすぐに改善に努めている。	家族の来訪時には相談などを受けるようにしている他、SNSで意見や要望を知ることが多い。要望としては、散歩や外気浴の希望であったり、手足を動かす作業をして欲しい等々の提案を受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月行い、経営会議等で職員の意見や提案等が反映できるようにしている。	月次のミーティングでは職員間での活発な意見交換だけでなく、意見箱への意見投函もありコミュニケーションが取れている。個別面談の機会も作っており、意見を運営に取り入れることは度々である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の意見を取り入れた運営方法により、どうしたら良くなるか という視点で、向上心を持って働ける職場作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内の他事業所での研修を実施し育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通して情報交換等をしている。(コロナの為外部と接触は避けている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から相談員を通じてなるべく多くの情報をもらい、ご本人がスムーズに入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から相談員を通じてなるべく多くの情報をもらい、ご家族と話し合い利用者様入居に関し不安等を取り除くよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、相談員を通じたり本人宅に訪問しなるべく多くの情報をもらい、ご本人がスムーズに入居できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前に、ご家族や相談員と相談しご本人にとって最善の方法を選んで頂ける様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を良好に保つため日々のお写真や状況を伝え本人がよりよい生活を送って頂けるようご家族様と話し合いながら本人を共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのご本人との関係を尊重するとともに、気軽に連絡などを取れるようサポートをしている。	年賀状や電話・手紙のサポートをおこなっているが、利用者の高齢化と認知度の変化で理解力も低下してきている。生け花を好む方や着付けを得意とする人は、出来ることで手伝ってもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの生活を重視し互いに顔を合わせ時間を多く持ちレクや散歩など通じてなじんで頂ける様配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居となられた利用者様へもご家族を通じて面会をしたり、当法人内のサービスを紹介し経過をフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン会議(毎月開催)により、日々の利用者様の思いや状態について情報交換を行い、ご本人にとって最善のケアができるように努めている。	家族からの情報や日々の積み重ねの中での気付きは、ミーティングで話し合い共有するようにしている。甘い物は嫌いだと聞いていた人がケーキを好まれたりとの発見はある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時と日々の生活の中で、ご本人やご家族へ確認をしながら職員全員で把握と共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時と日々の生活の中で、ご本人やご家族へ確認をしながら、職員全員で把握と共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアプラン会議を実施し情報・意見交換をして作成している。	月次のケアプラン会議では3名のカンファレンスを行い、3カ月で見直しを進めている。職員のモニタリングと、在宅医療医師や専任看護師他の意見も入れ、家族の意向も入れている介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや介護記録により、日々の実践や情報の共有をはかり、ミーティングにて意見交換を行い介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者の立場に立ち臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用や近隣中学校からの体験学習の受け入れ。防災訓練にて消防と連携し協力している。地域密着運営推進会議における民生委員の参加及び多数の参加への働きかけ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人又はご家族の希望を尊重し、かかりつけ医療機関に協力していただき連携し対応している。	在宅医療の往診医は2週間に1度の来訪があり、夜間も電話に出してくれる。また、専任看護師との連携もとれている。精神科医や皮膚科他は家族対応が基本だが、職員が同行し状況説明することが多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師の配置。体調管理や健康相談の実施。医療機関受診の判断や相談を管理者と行い、受診つきそいにより、日々の生活の注意点などを医師と相談し、職員へアドバイスを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、担当医師と家族と相談し、利用者にとって最善の方法を取ります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時におおむね家族がどのような希望をするか確認し、共有する。重度化となった場合は現状を担当医師や家族と相談し、利用者や家族にとって最善の方法を取っています。	入居時に指針説明と延命等についての確認を取っている。担当医の所見から家族を交えての相談機会を早めに度々行い、看取計画に移行することもある。専任看護師がいるので医療との連携も手厚く、職員にも安心の体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的防災訓練を行い、訓練している。	年2回の避難訓練では、通報・避難・消火訓練を行い、1度は夜間想定としている。備蓄品はレトルト食品や飲料水他を事務室で管理されている。各防災マニュアルは整理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき対応している。一人一人の尊厳を守り、利用者様の生活暦などを理解し個々に合った対応に努めている。	個人情報施錠ロッカーに格納され、パソコンはパスワード管理されている。プライバシー確保については、マナー研修を通して入浴時や排泄時の声掛けなど、人格の尊厳に配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の希望や状態を把握し実行している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	パーソンセンタードケアの実現に向け、日々どうしたらより良いケアが実現できるか、職員間で話し合う。本人の意思を尊重し、したいこと、興味のある事を見つけ支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の居室の職員の担当を決め、衣類の整理整頓や衣替えをしています。家族へご本人の希望などを助言するとともに対応しています。マニキュアやお化粧品、パックなど定期的に開催し男女共に楽しんで頂けるよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の習慣を大切にして、食事はバランスよく、季節ごとの料理や利用者様同士が献立を考え職員と一緒に作ったり楽しんで頂いています。	食器の用意やテーブル拭き、お盆拭きと手伝う利用者もある。「夕食は何にする」と意見を聞いてのメニューもあり、ピザやハンバーグを好む声も多く、デリバリーも喜ばれる。家族が野菜を持参することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分補給に気を配っている。水分摂取量は常にチェックし、不足分については個々の好きな飲み物を提供して水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後 個々に応じた支援をしている。数名の方は家族の許可を得て訪問歯科に入ってもらい更なる口腔内の管理をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自室にトイレがあるため、各個人快適に過ごしている。排泄表などにより、職員が排泄状況を共有し誘導や介助により排泄を支援している。	排泄チェック表から個々のリズムを掴んでいる。オムツ利用者にも時間管理で誘導し便座へ座って貰う。入退院から、トイレトレーニングを経てオムツから布下着へ変わった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レク等で適度な運動を個々に行い、便秘予防は排便表で管理し看護師の対応のもと協力医療機関と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おむねの時間帯は決めているが、本人の意向に沿う。	週2~3回の入浴で、利用者によって午前か午後浴としている。入浴嫌いな人は居ないが時間を変えたりはある。菖蒲湯やゆず湯、バラの花を散らしたりの工夫があり、入浴中に歌を唄う人は楽しそうである。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心休まる音楽などを聴いたりテレビをみたりラジオを聴いたり個々にあった、雰囲気づくりに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬や目的を理解し、管理表のもと服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間の行事やイベントなどを企画し、楽しめるよう支援している。またその人が持っている能力を発揮できるよう役割を持って頂きやりがいに繋げている。日々の散歩で気分転換をはかるよう気をつけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど、その人に合った、外出方法にて支援している。お花見やピクニックなど定期的に外出支援している。利用者様の希望やご家族の希望にも配慮している。(コロナの為人気を避けできる限り支援している)	コロナ前は、一緒に近くのスーパーへ買い出しに行っていたが、今は公園や近隣保育園への散歩を随時おこなっている。ドライブで車窓から夜のイルミネーションやお花見を楽しんだりしている。希望から、自宅へ屋間のみ帰る人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は困難の方が多いため、職員が行い、買い物や外食などでお預かりしているおこずかいで楽しんでもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望によりやり取りができるよう取次ぎを行っている。会話ができない場合テレビ電話の活用もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に花や置物・絵・イベントの写真等をかざり季節感や家庭的な雰囲気作りに努めている。	ワンフロア集約型であり、リビングは南を向き、ソファやテーブルの配置に工夫を入れた安全重視としている。季節感ある装飾は共同作品で、毎月歌う唄が掲示されている。掃除は利用者の協力もあり、好んで動き始める人もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳や食卓・ソファなどを様々な場所を用意してある為、気が向いた場所で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談して使い慣れたものをお願いしている。家族の写真などを飾り本人が自分の部屋でリラックスできるよう支援している。	各居室には洗面台とトイレの他、クローゼットとエアコンが装備されている。思い出の深い愛犬の写真や家族写真、仏壇を持っている人もある。馴染の品を置いて夫々の生活空間を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に沿って環境も変えるように取り組んでいる。		